

施工方法（粉末タイプ）

ラスボード

施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

1 石こう部の吸水抑え

ボードがカットされて石こうが露出している部分に水性シーラーを塗布して吸水を抑えてください。（8ページ参照）

乾燥

2 ファイバーテープ貼り

ボードの継ぎ目（ジョイント部・入隅・出隅）および、開口部（窓・ドア）の角にファイバーテープを貼って補強してください。

（8ページ参照）

コーナー定木を使う場合は20ページ参照

乾燥

3 下塗り

下塗材（NGU）を塗り、平らな面を作ってください。

※凹み部分で肉ヤセが出た場合、乾燥後に再度、下塗りが必要となります。

〈石こう系中塗材〉を施工した場合は、以下の手順となります。

中塗り

乾燥

3 シーラー塗布

乾燥

下塗り（NGU）

乾燥

4 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。

仕上げ塗りの要領は22ページ参照

合板

施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

1 シーラー塗布

水性シーラーを塗布してください。

乾燥

（ビス穴凹み埋め）

ビス穴凹みが深すぎる箇所は、下塗材（NGU）で埋めてください（1mm程度のビス穴凹みは埋める必要はありません）。

乾燥

2 ファイバーテープ貼り

ボードの継ぎ目（ジョイント部・入隅・出隅）および、開口部（窓・ドア）の角にファイバーテープを貼って補強してください。

（8ページ参照）

コーナー定木を使う場合は20ページ参照

3 下塗り

下塗材（NGU）を塗ってください。

乾燥

アクが出ていないかチェック

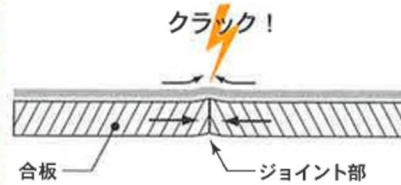
アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

4 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。

仕上げ塗りの要領は22ページ参照

注意



合板が全くすき間なく突き合わされている場合、施工後、ジョイント部が盛り上がる現象がまれに起こることがあります。合板を取り付けている構造体の伸縮や施工した壁材の水分による合板の膨張などが原因と考えられますが、こうした現象を避ける対処として、合板のジョイント部は少しすき間を設けるなどの工夫をしてください。

×き留め

×GLボンド留め

合板はビス留めしてください。き留めされている合板は、ビスで打ち直してください。GLボンドで取り付けられている合板下地はたわみや動きが大きいため、施工はおすすめできません。（5ページ参照）



▲下塗り後、合板下地からアクが出たリフォーム現場

土壁

1 シーラー塗布

水性シーラーを塗布して吸水を抑えてください。

吸水が激しい場合、水性シーラーは濃さを変えて3～4回塗布することもあります。

乾燥

2 下塗り

下塗材（NGU）を塗って不陸をなくし、平らな面にしてください。

乾燥

アクが出ていないかチェック

アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

3 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。

仕上げ塗りの要領は22ページ参照

塗り壁

（しっくい壁、じゅらく壁、じゅらく風壁、繊維壁など）

壁の状態をチェック

※繊維壁は剥がしてください。

表面が固く
しっかりしている

カビが生えている

表面が柔らかい
触るとポロポロ落ちる
剥がれかかっている

1 シーラー塗布

水性シーラーを塗布して吸水を抑えてください。

吸水が激しい場合、水性シーラーは濃さを変えて3～4回塗布することもあります。

乾燥

2 下塗り

下塗材（NGU）を塗り、平らな面にしてください。

乾燥

アクが出ていないかチェック

アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

3 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。

仕上げ塗りの要領は22ページ参照

1 表面の壁材を落とす

スクレーパーで表面の壁をすべて落としてください。

カビを殺菌

カビが生えていた壁面は、消毒用エタノールで確実に殺菌してください。

2 壁面の清掃

濡れ雑巾などで壁を清掃してください。

3 シーラー塗布

水性シーラーを塗布して吸水を抑えてください。

乾燥

4 下塗り

下塗材（NGU）を塗り、平らな面にしてください。

乾燥

アクが出ていないかチェック

アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

5 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。

仕上げ塗りの要領は22ページ参照